

平成23年12月22日

各 位

会社名 カルナバイオサイエンス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
 (コード番号：4572)
 問合せ先 取締役経営管理本部長 相川 法男
 (TEL：078-302-7075)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成23年12月期通期（平成23年1月1日～平成23年12月31日）の連結業績予想を、下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正内容

1) 平成23年12月期通期連結業績予想の修正（平成23年1月1日～平成23年12月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	770	△254	△200	△279	△4,767.24円
今回修正予想 (B)	586	△396	△342	△423	△7,217.97円
増減額 (B-A)	△183	△142	△141	△143	
増減率 (%)	△23.8	—	—	—	
(参考) 前期 (平成22年12月期) 通期実績	571	△398	△370	△397	△6,763.89円

(参考) 個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	696	△263	△210	△289	△4,928.11円
今回修正予想 (B)	532	△390	△336	△417	△7,112.89円
増減額 (B-A)	△163	△126	△126	△128	
増減率 (%)	△23.5	—	—	—	
(参考) 前期 (平成22年12月期) 通期実績	531	△380	△352	△379	△6,465.09円

2. 業績予想修正の理由

平成23年8月5日発表の平成23年12月期通期の連結業績予想において、創薬支援事業の売上高を650百万円、創薬事業の売上高を120百万円、全社で770百万円を見込んでおりましたが、創薬支援事業の売上高予想を561百万円、創薬事業の売上高予想を25百万円、全社で586百万円に修正いたします。

その背景を事業別地域別に分析すると次のとおりであります。まず、創薬支援事業における地域別売上高ですが、まず国内市場におきましては、本年3月11日に発生した東日本大震災の影響により顧客における予算執行が従来に比し低迷したことに加え、前連結会計年度において計上があったリード

探索サービスの売上が協業先であったOSI Pharmaceuticals, Inc. が買収されたことに伴い減少したこと等から厳しい事業環境でありましたが、学術営業サポート等による顧客の深耕等により売上の上積み努めたものの、前連結累計期間比37百万円減、前回公表予想に対し64百万円減の280百万円にとどまる見込みです。北米市場におきましては、日本国内において実績を積み重ねてきた研究員による学術営業サポートを米国内において浸透させたこと等により大幅な顧客数増を達成することができ、米ドル建ての売上高は前連結会計年度比22%増を達成する見込みであります。しかしながら、急激な円高ドル安の影響等により、前連結会計年度比では16百万円増、前回公表予想に対し40百万円下回る154百万円を見込んでおります。欧州市場におきましては、当期下半期の売上は順調に推移し当初業績予想をほぼ達成する見込みであります。第2四半期までの売上低迷が影響したこと等から、前連結会計年度比では12百万円増、当初業績予想に対しては25百万円下回る71百万円となる見込みであります。その他地域の売上高においてはバルクタンパク質の大量受注等により前連結会計年度比26百万円増を達成し、前回公表予想に対しても42百万円上回る55百万円を見込んでおります。また、創薬事業においては、当社研究テーマの導出交渉を継続的に行ってまいりましたが、当社が創製したリード化合物に係る試験データをさらに整備し提示する必要性があること等から導出に係る一時金収入が平成24年12月期以降に持ち越しとなること等により、前回公表予想を94百万円下回る25百万円となる見込みであります。

以上の結果、平成23年12月期通期の連結業績予想について、売上高を前回公表予想に比べ183百万円下回る586百万円（前連結会計年度比14百万円増）に修正いたします。損益面については、諸経費の節減に最大限努め販管費を圧縮してまいりました結果、前述の売上高の減少があるものの、営業損益は142百万円、経常損益は141百万円、当期純損益は143百万円それぞれ前回公表予想に比較して悪化することとどまる見込みであります。

なお、個別業績予想の修正につきましても、連結業績予想の修正と同様の理由によるものであります。

(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上